

改訂第3版の序

最近のがん薬物療法は、新たな抗がん剤（特に分子標的薬）や支持療法薬の登場，またチーム医療の充実により，安全により効果的に行われるようになってきました。領域によっては，治療成績の大幅な向上がみられていますが，治療効果や副作用対策が未だ不十分な領域もあり，更なるがん薬物療法の向上が望まれています。

本書の第3版の改訂にあたって，新規の抗がん剤の発売やガイドラインの改訂に伴う新たなレジメンの追加・変更を行いました。また，各項目の内容の追加や修正も行いましたので，今まで以上に使いやすいハンドブックになっていると思います。

がん薬物療法は，ますます入院から外来への移行が進んできます。外来化学療法では，患者さんの帰宅後に発生する副作用に，患者さんや家族がどのように対応するかが重要なポイントです。そのため外来での患者さんへの説明や指導がとても重要です。支持療法薬のみが院外処方せんで処方される機会も多く，経口抗がん薬の院外処方とともに薬局における説明や指導も同様にとっても重要です。本書は，支持療法薬や経口抗がん薬を含むレジメンも（単剤も）充実していますので，薬局薬剤師の方々にも今まで以上に参考にしていただけたらと思います。

本書が，病院や薬局でがん薬物療法の向上を目指している薬剤師をはじめ，医師，看護師の方々の参考として重要な一冊となることを願っています。

2013年2月

日本臨床腫瘍薬学会 理事長
明治薬科大学医薬品安全管理学 教授
遠藤 一司